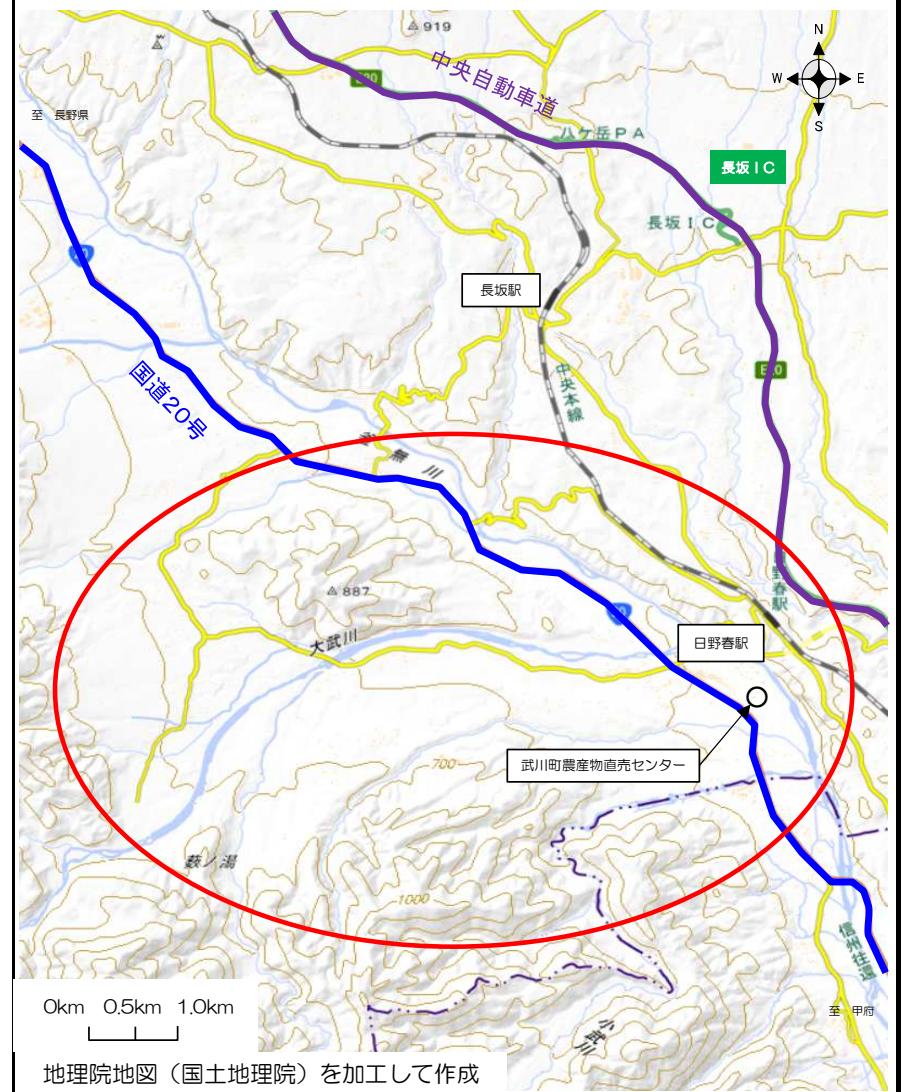


令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) (国補) • 県単

1. 事業説明シート

事業名	中山間地域整備事業 [中山間地域総合整備事業（国補）]	事業箇所	北杜市 武川町、白州町	地区名	甲斐駒東部	事業主体	山梨県				
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項（関連事業概要等）							
	H28～R6	H28～R8	H28～R12	なし							
総事業費	1,900 百万円	2,200 百万円	2,530 百万円	⑤これまでの評価状況（平成27年度事前評価）							
(1) 事業の概要											
①事業目的及び効果											
本地区は、北杜市の西部に位置する自然環境豊かな地域であり、地域の活性化構想では「ふるさと・ふれあい甲斐駒の郷」のキャッチフレーズのもと、特別栽培米や特産野菜などのブランド化や都市と農村の交流に力を入れた営農が取り組まれている。											
その結果、食味が高い評価を得ている「梨北米」の産地として確立され、畠地帯においても、キュウリや長芋などを栽培し直売所を通じた都市交流が活発化している。また、企業の農業参入も始まり、地域の雇用促進にも繋がっている。											
一方、小区画の農地による作業効率の低下や用排水施設の老朽化に伴う用水不足など区内の生産基盤の課題は多く、また近年ではイノシシやシカ等の野生獣の被害範囲が拡大し、営農に支障が出ている。											
本事業は、区画整理、水路等の基盤整備により、地域農産物の生産性の向上と農業経営の安定化を図ると共に、地域や企業等の多様な担い手への農地集積を推進することで地域農業を維持することを目的として実施している。											
□主要目標 ○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得増加額 1,600千円/ha≥1,322千円/ha※（※評価基準値）											
□副次目標 ○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減											
□副次効果 ○遊休農地の解消 ○農地の保全											
②事業概要											
現計画 变更計画											
用排水施設	L=4,353m	→	L=4,353m								
農道	L=2,120m	→	L=2,120m								
区画整理	A=12.3ha	→	A=12.3ha								
鳥獣害防止施設	L=9,570m	→	L=9,570m								
③全体計画											
		令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降							
現計画	工事内容	用排水施設 L=3,480m 農道 L=1,700m 区画整理 A=9.8ha 鳥獣害防止施設 L=7,660m	用排水施設 L=460m 農道 L=210m 区画整理 A=1.3ha 鳥獣害防止施設 L=950m	用排水施設 L=413m 農道 L=210m 区画整理 A=1.2ha 鳥獣害防止施設 L=960m							
	事業費	1,650 百万円	330 百万円	220 百万円							
変更計画	工事内容	用排水施設 L=1,012m 農道 L=590m 区画整理 A=4.2ha 鳥獣害防止施設 L=1,368m	用排水施設 L=250m 農道 L=196m 区画整理 A=1.8ha 鳥獣害防止施設 L=1,000m	用排水施設 L=3,091m 農道 L=1,334m 区画整理 A=6.3ha 鳥獣害防止施設 L=7,202m							
	事業費	1,045 百万円	185 百万円	1,300 百万円							
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。											



2.評価シート(1)

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)

①地域・住民の意向状況

- ・区画整理をはじめ、用排水施設、農道等の未着手路線については、各路線とも施設の老朽化が著しく、計画箇所の早期整備が求められている。

②産業・経済情勢

- ・労務費、建設資材費の上昇

③国等の方針

- ・なし

④上位計画・関連事業計画等

- ・やまなし農業基本計画（令和6年1月策定）

⑤自然環境条件等

- ・武川町空場遺跡では、縄文時代中期、後期、晚期、平安時代の縦穴住居跡が90軒以上発見され、それとともに膨大な縄文土器や石器、土偶などが多数出土されている。このため、その埋蔵文化財発掘調査に不測の日数を要している。

⑥その他

- ・なし

(2) 評価時点の費用対効果分析

項目	着手時点	変更計画時点
総事業費	1,900 百万円	2,530 百万円
工期	H28～R6	H28～R12
評価基準年	H27	R7
費用	4,030 百万円	4,262 百万円
建設費	1,381 百万円	1,928 百万円
関連事業費	2,649 百万円	2,334 百万円
便益	6,740 百万円	7,233 百万円
作物生産効果	5,319 百万円	5,959 百万円
走行経費節減効果	282 百万円	369 百万円
営農経費節減効果	685 百万円	359 百万円
その他※	454 百万円	546 百万円
B/C	1.7	1.7

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、品質向上効果、維持管理費節減効果、国産農産物安定供給効果

(3) これまでの計画変更等の概要

- ・用排水施設について、地元調整の結果、管理用通路の設置が必要となったこと、またそれにより水路構造の見直しが生じたため事業費を増とした。
- ・農道について、現地精査の結果、構造物の見直しが必要となったため事業費を増とした。

- ・物価高騰や労務単価の上昇を要因とする事業費の増

- ・埋蔵文化財発掘調査の影響により、区画整理をはじめ、各工種の着手に不測の日数を要したため、事業工期を令和8年度までとした。

項目	当初	現計画
総事業費	1,900百万円	→ 2,200百万円
計画期間	2年延長	
事業概要	用排水施設 農道 区画整理 鳥獣害防止施設	L=4,610m → L=4,353m L=2,120m → L=2,120m A=12.0ha → A=12.3ha L=12,130m → L=9,570m

評価シート（2）

（4）事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R7年度進捗率（現計画）90%→（実績）55.9%→（変更計画）48.6%

②進捗率実績が計画と相違している理由

区画整理において、当初計画箇所の換地計画の見直しと、地区内に分布する埋蔵文化財の試掘調査やその結果に伴う発掘調査に想定を上回る期間を要している。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
用排水施設	160 百万円 増	地元調整の結果、既存の施設機能の向上を図り、維持管理を容易にするため、沈砂池等の土砂溜機能の確保による事業費の増。
農道	28 百万円 増	詳細調査及び設計の結果、路床の地盤改良が必要となったことによる事業費の増。
区画整理	60 百万円 増	新たな担い手農業者の参入による営農計画に伴い、ほ場を集約化したことで切盛土量が増加したことによる事業費の増
文化財調査費	82 百万円 増	試掘調査の結果、想定以上の埋蔵文化財の発掘調査が必要となったことに伴う事業費の増
合 計	330 百万円 増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

区画整理において、当初計画箇所の合意形成が難航したため、整備箇所の見直しに係る地元との調整に不測の日数を要した。また、想定以上の埋蔵文化財が出土したことにより、発掘調査の実施に期間を要し、進捗に遅れが生じていた。

しかしながら、区画整理の合意形成も概ね完了し、関係者との調整が整ったことから、計画的かつ効率的な発掘調査と事業の実施に努め、令和12年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

（5）環境負荷等への配慮

なし

（6）コスト縮減の可能性

なし

（7）代替案立案の可能性

なし

（8）所管部の今後の方針 繼続・見直し・継続 その他（ ）

（理由）

残された路線については、地域からの整備要望も強く、安定的な用水の確保、農作業の効率化による産地の維持や、鳥獣害防止による営農意欲の向上に不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し令和12年度の完了を予定している。

○別表-進捗率（事業費ベース）

算出方法：【上段】現計画の計画事業費／総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費／総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費／総事業費×100

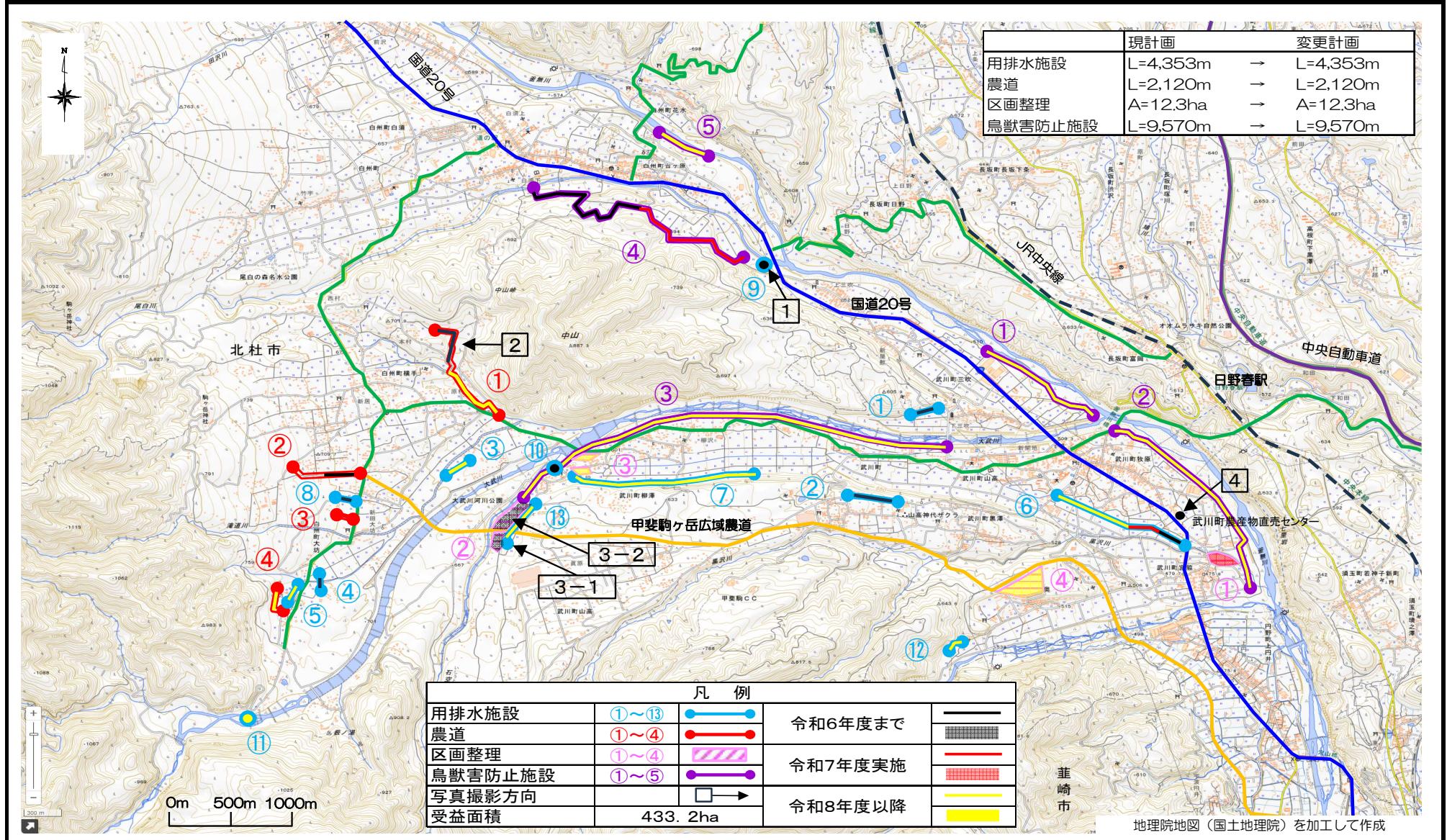
単位：%

年度	*H28	～	R1	R2	R3	R4	R5	R6	*R7	R8	R9	R10	R11	R12				
現	計画	1.0	～	15.0	25.0	35.0	45.0	60.0	75.0	90.0	100.0							
	実績	0.9	～	4.0	8.0	18.0	28.0	35.4	47.5	55.9	68.4							
変更計画									48.6	59.5	72.5	83.4	92.1	100.0				

*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

3.添付資料シート(1)



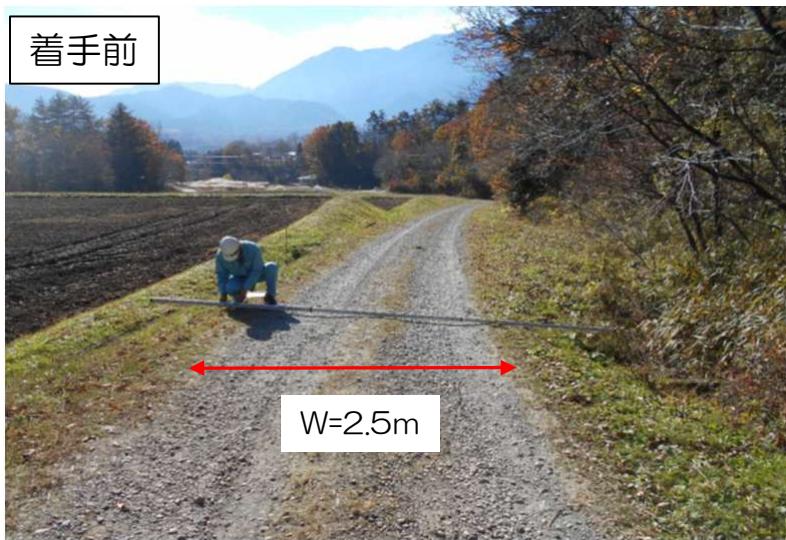
3.添付資料シート（2）



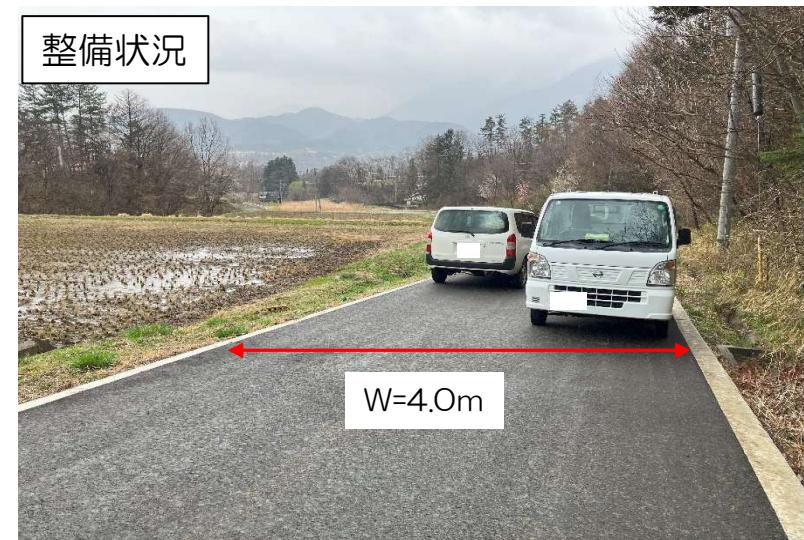
一級河川尾白川から取水している当該取水施設は、設置後40年以上経過による老朽化に加え、土砂の堆積により安定的な取水に支障をきたしていた。



詳細設計により、土砂溜機能を確保するため適正な施設規模に変更し、施設の機能向上を図ることで維持管理に要する労力の軽減と、農作物の生産性が向上している。



幅員が狭く、車両のすれ違いができないため通行に支障を来たしていた。



農道整備により、安全なすれ違いが可能となり、通作や集出荷の効率化が図られ営農条件が改善された。

3.添付資料シート（3）

3-1【区画整理】



小小区で不整形であったため、営農効率が非常に悪いほ場だった。



新たな担い手農業者の参入による営農計画に則した整備計画に見直し、ほ場を集約化した結果、切盛土量が増加した。大区画化に伴い営農条件が改善され、生産性の向上が図られた。

3-2【文化財調査費】



縄文時代中期、後期、晩期、平安時代の縦穴住居跡が90軒以上発見されたことにより、文化財の発掘調査の実施に想定を上回る期間を要した。

4【武川町農産物直売センター】



梨北米の产地として確立されている本地域は、直売所を通じた都市農村交流等も期待され、県内外からの観光客で賑わっている。

4. 年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進歩率 (%)
H28 ～R1	88,000	設計業務一式	3.5
R2	88,000	設計業務一式、用排水施設L=206m	7.0
R3	220,000	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=258m	15.7
R4	220,000	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=309m、区画整理A=2.2ha	24.3
R5	161,700	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式、農道L=381m	30.7
R6	267,300	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=239m、農道L=209m、区画整理A=2.0ha、鳥獣害防止施設L=1,368m	41.3
R7	185,144	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=250m、農道L=196m、区画整理A=1.8ha、鳥獣害防止施設L=1,000m	48.6
R8	275,000	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=300m、農道L=300m、区画整理A=3.0ha、鳥獣害防止施設L=2,000m	59.5
R9	330,000	設計業務一式、埋蔵文化財調査一式 用排水施設L=841m、農道L=400m、区画整理A=2.1ha、鳥獣害防止施設L=2,000m	72.5
R10	275,000	設計業務一式 用排水施設L=700m、農道L=230m、区画整理A=1.2ha、鳥獣害防止施設L=1,000m	83.4
R11	220,000	設計業務一式 用排水施設L=500m、農道L=200m、鳥獣害防止施設L=1,202m	92.1
R12	199,856	用排水施設L=250m、農道L=204m、鳥獣害防止施設L=1,000m	100.0
合計	2,530,000		